一般質問

本会議の映像はＹｏｕＴｕｂｅにアップロードしております。
一般質問のページに掲載しているＱＲコードから動画を視聴することができます。

各商店街に対し、街灯の電気代の補助事業を実施すべき!!

新時代そうま
只野敬三 議員
が問う！

商店街に対する支援策について

中心市街地の各商店街では、人口減少による絶対客数の減少に加え、災害対応により空洞化が進み、組合の会員数が減っている中、物価高騰により光熱費などの経費が上がり、今までどおり街灯や防犯カメラを維持することが困難になっている。市のイメージと防犯の観点から簡単に消す訳にはいかないことから、維持のための補助等について質問する。

Q. 街灯等の維持に対する補助事業の実施について問う。

A. 商店街の街灯は、商店街の発展や治安維持のために各自治会や組合で電気料を負担していただいている。今後も各組合等で負担いただきたいと考えているが、組合が解散しているところもあり、組合が解散しても防犯上の目的のため深夜でも消灯せずに点灯し続けているところもあるのが現状となっている。

市は、商店街の街灯は防犯上の役割を果たす公共性もあることから、市内各地区において負担いただいている防犯灯の電気代との整合性や公平性を図りながら支援に向けて協議・検討していきたいと考えている。

Q. おでかけミニバスの効果について市長の認識を伺う。

A. 市は、65歳以上の方々の買い物支援と市街地の活性化を目的に平成22年10月からおでかけミニバスを運行しており、令和4年度には、6台の車両で20ルート、週2回運行し、4，159人が利用している。本事業については、市民からの要望を踏まえ、関係団体と連携しながら見直しや拡充などの改善を図ってきている。

また、高齢化の進展に伴い、運転免許証の返納推進の手段としての側面も出てきており、特に、郊外に住む方が、買い物弱者や交通手段弱者になることを防止する目的も大きくなってきている。

現在、市民からはオンデマンド型への変更の要望も寄せられていることから、今後、おでかけミニバスのより効率的な運用に向けて協議を重ねていく。

その他の質問

○起業家支援策について
○相馬港の利活用について

↓ 動画は ↓
↑こちらから↑

子育て支援の拡充として第2子以降の保育料無償化を考えるべき!!

無会派
獺庭大輔 議員
が問う！

手厚い子ども・子育て支援の充実について

子育て支援の整備として、企業も働き方改革や育児休暇で育児と仕事を両立させる取り組みを行っている。相馬市も子育て世代の支援を拡充し、安心して子育てできる地域を目指すべきである。保育料助成は国の施策に基づいて実施しているが、3歳未満の保育料については市独自の子育て支援として無償化することを検討すべきと考え、質問する。

Q. 0～2歳児の保育料無償化について問う。

A. 市では、国の無償化政策に伴い、3歳から5歳の児童全員と住民税非課税世帯の0歳から2歳の児童の保育料を無償化している。さらに、住民税所得割の額や兄弟の保育施設利用状況により、第2子以降の保育料が半額あるいは全額減免される多子軽減も実施している。

令和5年11月末現在、0歳から2歳の保育施設利用者は302人、285世帯となっている。その中で、保育料が無償化されている低所得世帯の児童は22人、20世帯である。また、多子軽減対象として保育料が半額になる児童は99人、全額減免の児童は25人となっている。

Q. 保育料無償化の拡充について問う。

A. 保育料の無償化は、国の基準を基に市保育料徴収規則で定めており、多子軽減についても、国の基準に準じている。

全ての第2子以降の保育料を無償化すると、令和5年度換算で年間約4，300万円の負担が市に発生し、現在の財政状況では困難であると考えている。

市としては、保育料の無償化は全国一律の施策とすべきと考え、全国市長会を通じて国へ要望を行い、市民が安心して子育てできる環境整備に引き続き努めていく考えである。

その他の質問

○災害に強いまちづくりについて
○小・中学生の「読解力」向上の取組ついて

↓ 動画は ↓
↑こちらから↑

市民の声に寄り添い、地域の活性化のために取り組むべき!!

にじ
畑中昌子 議員
が問う！

地域の活性化について

地域の活性化のために、市民の声に寄り添った取り組みが必要だと考える。道の駅そうまの外灯等の整備を万全にし、利用者の安全を第一に考えていただきたい。また、「福とら」の新事業に対しては市民も大いに期待していることから、外灯の管理及び「福とら」の現状と今後の課題について質問する。

Q. 公共施設の外灯等の管理について問う。

A. 道の駅そうまの管理は、市と国土交通省が協同で行っており、駐車場の外灯管理は国土交通省、駐車場の路面の維持修繕は市と国土交通省が所有部分ごとに負担することとなっている。

現在、全20か所ある外灯のうち、夕方では物産館やトイレ側の10か所が点灯し、午後9時以降は2か所のみが点灯している。また、一部の車止めブロックに破損や反射板の外れが見られている。

市としては、市民や利用者の安心できる環境を目指し、国土交通省に外灯の点灯数の増加や点灯時間の延長、車止めブロックの修繕等を要請、協議しながら、環境整備と改善に取り組んでいきたいと考えている。

Q. 相馬の新名物「福とら」の現状と今後の課題について問う。

A. 近年、福島県沖で天然トラフグの漁獲量が増え、相馬双葉漁業協同組合は、特定の条件を満たす天然トラフグを「福とら」と名付け、市場拡大を目指している。また、交流人口の拡大や地域経済の活性化を目的として、市観光協会を中心に、相馬市「福とら」活用推進協議会を設立し、全国に向けてＰＲを開始している。

市としては、水産物の風評払拭のため、国の補助金を活用し、相馬の新名物天然トラフグ「福とら」プロモーション事業を展開し、情報発信や広報活動を行っており、既に提供店で予約が殺到しているなどの効果が現れている。

今後の課題としては、漁獲量の安定、フグ調理資格取得者の増強、フグ食文化の地域定着などである。

市としては、これら課題解決に向け関係機関と連携し、水産物の風評払拭、交流人口の拡大及び地域経済の活性化に取り組んでいく考えである。

↓ 動画は ↓
↑こちらから↑